

肥えた牛を食べて憎み合うよりも

遠藤 勇 司

奨励者紹介〔えんどう・ゆうじ〕

日本キリスト教団希望ヶ丘教会副牧師

貧しい人の一生は災いが多いが
心が朗らかなら、常に宴会にひとしい。
財宝を多く持って恐怖のうちにありよりは
乏しくても主を畏れる方がよい。
肥えた牛を食べて憎み合うよりは
青菜の食事で愛し合う方がよい。

（箴言 15章15—17節）

神よりもインターネットの方が大切？

先月、Goethe Institut 大阪の授業で、ヨーロッパ31ヶ国在住の18—34才の若者へのアンケート（政治、宗教、セクシュアリティ、人生の幸福等々、149項目）の途中経過を読む課題が与えられました。その中で特に目を引いたのが、ドイツの若者が「人生の幸福」について、「将来、無くても幸せになれるだろう」という項目に対し「子ども、車、TV、神」をあげていたことです。驚いたことに「神無しでも幸せになれるだろう」という若者が80%もいたのです。逆に「将来の幸せに、これだけは必要」という項目に対し「インターネット」が52%となっていました。

皆さんは、この質問にどう答えるでしょうか。

『聞く地蔵と聞かぬ地蔵』

このアンケートを読んでいる時に、宇野浩二の『聞く地蔵と聞かぬ地蔵』という童話を思い出しました。西本願寺前門主の大谷光真が「見守られていることの幸せ」という法話の中で、その童話を次のように要約しています。

ある貧しい村に、旅のお坊さんが立ち寄りました。村人たちは貧しい中でお坊さんを心温かくもてなしたところ、お坊さんは感謝して、お礼にと一対のお地蔵さんをその村に置いていかれました。西のお地蔵さんは、願いを何でもかなえてくださる「聞く地蔵」、東のお地蔵さんは、願ってもただ黙っているだけで、何も聞き届けてくださらない「聞かぬ地蔵」です。

お坊さんは村を去るときに、

「西の地蔵よりは東の地蔵にお参りするほうがいいぞ」

と言いついていきました。村人たちは最初、両方のお地蔵さんにお参りしていたのですが、東のお地蔵さんは、何も願いを聞いてくれません。西のお地蔵さんはお参りすると願いをかなえてくれるので、村人た

ちはこぞってお祈りをし、病気や災厄を免れ、豊かになり、立派な家も手に入れました。ところが、働かなくても願ったものは何でも手に入るために、誰も働かなくなったばかりか、ほかの村人たちよりももっと立派な家に住みたい、もっと金持ちになりたいと願い、はては、「あいつが病気になりますように」「あの家が貧乏になりますように」とお互いが相手の不幸を願うようになったのでした。

村人たちは、いつ自分の不幸が祈られるのかと不安で、隣人さえも信じられなくなり、いさかいが絶えません。村の混乱ぶりがここまで来たとき、あのお坊さんが再び村にやってきて、「東の聞かぬ地蔵にお参りしなさい」と言われたのでした。

村人たちはやっと最初に言われた意味に気づき、東のお地蔵さんにお参りするようになりました。

その結果、村は貧しくなったけれども、村人たちは再び懸命に働くようになり、お互いの信頼も回復されて元の平和な村に戻ったということです（大谷光真「見守られていることの幸せ」『人生は価値ある一瞬』PHP研究所 2015年 108—110頁）。

大谷は「この短い物語には、人間の願いや幸せと欲望の問題」が提示され、「苦しいときでも、黙って自分を温かい目で見守ってくれる存在」に目を向けることを促しています（同書 110—111頁）。

見せかけの良さにまどわされない選択を

箴言も宇野の童話のように、二つの対照的な事柄を提示し、読者に「良い方」を選ぶことを促しています。「災い」の多い人生と「青菜の食事」という表現は「幸せからほど遠い」人生のように思われるかもしれませんが、心のもちようによっては、幸せの表現である「宴会」と同じ状態になり、貧しくとも「愛し合う方がよい」と謳っているのです。反対の極にある「財宝を多く持って」、「肥えた牛を食べる」ような富める人、一見幸せに見える人々が、実は「恐怖のうちに」あり「憎み合」っていることが示されています。今の社会情勢を顧みても、「利益」や一時の「幸せ」に惑わされ、選択を誤り、「憎み合っている」人々が多く存在するように思えるのです。

人生の歩みで選択を迫られる時、見せかけの良さに惑わされ、「願いを何でもかなえてくださる西のお地蔵さん」のような存在を選び、「肥えた牛を食べて憎み合う」のではなく、一見して何の利益ももたらさない、「何も聞き届けてくださらない東のお地蔵さん」のような存在を選び、「互いに愛し合う」人生となることを祈り願っています。

参考文献

Generation What? 23.05.2016. Glücklich ohne Kinder und Auto – aber nicht ohne Internet. Goethe Institut Osaka 授業での配布資料より。インターネット調査は2016年4月から11月まで継続中。詳細は <http://www.heute.de/generation-what.zdf.de-43593042,4672.html> を参照。